

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	平成26年3月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0193500139-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は介護に従事する者として、人権尊重・人格尊重・人権擁護の基本理念を理解し、職員自身も自らの個性を受け入れて理解しながら利用者個人の「自分らしさ」「私らしさ」を支援出来るよう日々努めている。また、普段から外出(ピクニック・外食・買い物)やベランダでのお茶会を呼びかけ、日々の生活の中での喜びや気分転換を図っていただくよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあさひの家室蘭」は、室蘭駅から車で数分の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。法人としての事業所運営の経験を活かしながら、昨年開設された2階建て2ユニットの事業所である。清潔感のある建物内は、居間や食堂の大きな窓から明るい光が注ぎ、開放感がある造りになっている。回廊式で、台所を中心に共有スペースと居室に分かれており、各利用者のプライバシーにも配慮されている。近隣にはスーパーマーケットや市内の文化財が見学できる文化館もあり、利用者の外出場所になっている。法人のバックアップ体制の下、各種マニュアルや研修も充実しており、開設1年目の今年度は、本部担当者や外部講師による内部研修を含め、月に3～4回程度の内外研修を実施するなど、職員のスキルアップに向けて積極的に取り組んでいる。管理者は、職員と共に真摯な気持ちを持ちながら利用者の目線に立った温かな個別支援を行っており、各利用者の笑顔に繋がっている。日々の散歩、ドライブや水族館への外出など、季節に応じて外気に触れる機会も積極的に設けている。看護師を配置して、日頃の健康管理やかかりつけ医の受診支援も事業所で行うなど、医療面でも充実した対応が行われている。今後は看取りにも取り組む意向で、看護師を中心に全職員で学びを深めている。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なじみの暮らしの継続をし暮らしの中で生きがいや役割を持ち培われた「力」を発揮できる等理念掲示の共有を常に念頭に置き業務に取り組んでいる。	「地域社会との関係を大切に、近隣住民や商店、地域資源などと連携した支援をします」という、事業所の理念を作成して居間に掲示している。会議などで振り返りを行っているが、今後更に職員間で再確認する機会を増やして行く意向である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へは法人で加入しています。ボランティアの訪問の受け入れを考えております。	散歩の機会に地域住民と挨拶を交わしたり、近隣の文化館に出かけて、文化財や展示を見学している。ボランティア協会への加入を活かして、今後は多くのボランティアを受け入れて行きたい意向を持っている。	ボランティアとの交流を通して、利用者と地域の方々との繋がりが更に深められるように期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と散歩時すれ違う地域住民との会話や町内会長を通じて地域へ認知症の啓発を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1度運営推進会議を開催している。入居者家族、町内会長、民生委員、市介護保険課、地域包括より出席頂き意見、要望を聞きサービス向上に繋げている。全家族に議事録を送付している。	年度初めに年間の開催日時を決め、事業所報告を中心に、防災や避難訓練、看取りなどについて事業所としての方針を説明している。開催案内と議事録は全家族に送付しているが、諸事情により家族の参加が少ない状況である。	テーマを入れた会議案内を送付して事前に意見を聴き取るなど、参加できない家族の意見が会議に活かされるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、行政担当者も出席しており連携を密にしている。	管理者は、電話や市役所を訪問して、運営上で分からない事や利用者の入居などについて相談している。提出書類も可能な限り直接届けるなど、積極的に協力関係が築けるように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症ケアについての勉強会、各種の研修会に参加。ユニットでのミーティングにて人権尊重と言う理念を常に念頭に置き、身体拘束を防止する体制が出来ている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を入れた法人マニュアルを整備し、内部研修を行っている。利用者の状況に応じて、事例に沿って禁止項目と照らし合わせながら拘束に繋がらないような対応を検討している。今後も、「禁止行為」11項目について、職員間で更に理解を深めて行く意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加。勉強会やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

グループホーム あさひの家 室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種の研究会に参加し、ホーム内での勉強会でフィードバックし理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等時間を取り丁寧に説明している。利用料金、リスクとその管理体制、個人情報取り扱い、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し同意を受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加して外部の方々のおもいを伝えられる機会を作っている。利用者や家族の意見記録を用意、意見箱の設置や要望をくみ取り運営に反映させている。	家族の来訪時には、職員が利用者の普段の様子を話し、専門的な部分に関しては看護師や管理者が詳しく説明している。家族から出された意見などは口頭で伝えると共に、申し送りノートにも記載して全職員で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・勉強会・ミーティングなどで意見を聞くようにしている。職員の意見や要望などの思いを聞くようにしている。	管理者は、各職員と日頃から話をする機会を作りながら、意見や提案を聞き取るように配慮している。今年度は、職員との個別面談も2回程行われている。職員は、接遇委員会や研修委員会など、各種委員会に所属しながら運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に来て、個別職員の業務や思いを拍している。また資格取得についても、向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には多くの職員が参加できるようにしているが勤務状況により研修に参加できない事もあり今後の検討課題の一つである。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会の研修会に参加し交流を図りお互いの学びやきずき、悩みの共有の場を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人と会い、心身の状態や本人の思いに向き合い、不安や願いを受け入れる体制が確保されていることを説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やこれまでの経緯について聞くようにしている。話を聞くことで落ち着き次の段階への相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。地域支援センターや他事業所につなげ、「その時」を重視したサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で心身の状態観察を行いケアに努めている。利用者に対する接遇・人権の尊重と高齢者への敬意を念頭に置き関係を深める努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との思いに寄り添いながら、日々の状態把握を行い築きや情報共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の来訪時には、ゆっくり過ごせる場所を提供している。家族の協力で墓参り、外出に出かけている。	自宅近くの友人や、仕事関係の知人などが来訪する利用者もいる。知人からの電話の取り次ぎや手紙の代筆などを行いながら、馴染みの関係が継続出来るように支援している。職員と一緒に、自宅の近くにドライブで出かける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が楽しく過ごせる場を作ったり、関係性がうまくいくように職員が調整役に成り関係性が保てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去されたご利用者が1名おられたが、病状により再入居は難しくその後の相談や支援は出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人の思いや意向を日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情などからも本位をくみ取るようにしている。	殆どの利用者は会話での意思疎通が可能であるが、いつもと違う行動や表情が見られた時は、居室などでゆっくり話をして思いや意向を聞き取るように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、担当関係者からこれまでの暮らし方を伺う様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事、分かる事分からない事、を24時間の記録の中から生活リズムを理解しその日の行動を記録し情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体カンファレンスで変化があった時はその都度話しあいケアプランへ反映できるように努めている。	新規利用者の介護計画は、1か月で見直している。定期的な見直しは、可能な限り家族の意向を事前に聴き取り、計画作成担当者を中心に3か月毎に行っている。今後は、介護計画に沿った実施記録とモニタリングの充実を図って行く意向である。	更新計画に活かせるように、介護計画の具体的な項目に沿って、全職員で評価が行われるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況変化や職員の気付きは個別のケア記録に記載し職員間で情報共有に努めている。様々なタイミングで話し合い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を生かして利用者にとって負担になる受診、入院の回避をしご家族、本人の意見を大切に心身の状況に合わせて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるように民生委員、市担当者と意見を交換する記録を設けている。近隣の歯科医院、病院との連携は行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族のかかりつけ医となっている。常に適切な医療を受けられるようにしている。	往診の他、かかりつけ医を継続している利用者も多いが、看護師や管理者が受診支援を行っているため、適切な健康情報が主治医に提供されている。受診後は家族に報告して、「受診経過」用紙に個別に記録している。	

グループホーム あさひの家 室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を中心に体調変化に対して情報の共有をし、必要に応じてカンファレンスを行い適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人に関する情報を医療医に提供している。家族とも情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に「重度化した場合の対応にかかる指針」を文章で説明し理解を得ている。同意書を書いている。	重度化の指針と看取り指針を作成して、利用開始時に説明している。常時医療行為が必要になった場合や嚥下が困難になった場合は、事業所での対応が難しい旨を説明している。主治医の判断の下、家族の意向に沿って看取りも行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時に状況に応じた応急処置の講習、訓練を行った。またマニュアルを作り全職員が落ち着いて対応できるように努めている。今後も様々な訓練、研修に参加して実践を見つめる必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防と連携を図り避難訓練を行っている。消防署指導の下、日中想定避難訓練、消火器訓練をした。今後は夜間想定訓練を行う予定です。マニュアルを作成している。	今年度は、自主訓練と消防署の協力による訓練も行われているが、近隣住民の参加は得られていない。市の津波訓練に職員が参加して、災害時の対応などを学んでいる。職員は救急救命訓練を受講し、災害備蓄品も整備している。	夜間想定避難訓練を行うと共に、地域との役割分担を明確にして、訓練に地域住民の参加が得られるような働きかけを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシーの保護について研修を行い利用者の尊厳を守るようにしている。不適切、不十分な場面もありお互いに注意し対応している。	接遇委員会が中心となって研修会を開催し、全職員が参加して具体的な場面を想定した勉強会を行っている。不適切な声かけやプライバシーを損う対応がないか、職員間でも注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促し本人の希望に添える様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた生活リズムで生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時更衣の際着る服を選んでもらっている。外出の際着替えの支援をしている。		

グループホーム あさひの家 室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、味付け、味見をして貰い食べる事の楽しさを感じてもらっている。食器洗い、片づけを職員と一緒にしている。	利用者の希望や旬の新鮮な食材を使い、行事や季節に応じた献立を職員が作っている。利用者は、料理の味付けや調理に参加して職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、水分量の記録、摂取量の確認、栄養補助食品の提供、嚥下状況に合わせ食材の形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修会に参加記録し重要性の理解をしている。本人の力を見極め仕上げ介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を記録しさりげなくトイレを促している。	「トイレで排泄する」ことを基本に、排泄支援をしている。排泄記録を見て個別にトイレ誘導する事で、失禁が減ってきている。誘導時は「トイレ」という言葉を使わないで、耳元で小声で話している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、乳製品の提供、腹部マッサージを行い排便の促しをしている。服薬による便秘も考慮し連携している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせている。他体調により清拭などもしている。本人の希望に応じながら週2回以上入浴できるようにしている。入浴剤を入れ楽しく入浴出来る様にしている。	週2回以上を基本としているが、毎日入浴できる態勢があるので失禁や皮膚の状態により回数を増やしている。入浴剤やお湯の温度調節などに配慮して、入浴を楽しんでもらうように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠サイクルに合わせた支援をしている。居室の採光、室温、湿度の調整をし気持ちよく眠れる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時医師や薬剤師より説明を受け、副作用や体調の変化を見極めた支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事の役割分担表を貼り出来る事を支援している。嗜好品を聴き用意提供している。行事の際にはノンアルコールビールも提供した。		

グループホーム あさひの家 室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて季節を感じてもらい、心身の活性化に繋がるように支援している。	近隣のスーパーマーケットでの買い物や港の文学館見学、白鳥大橋に出かけたり、病院の送迎時にドライブをするなど、外出の機会を多く設けている。外出を好まない利用者には、ウッドデッキや芝生に座ってもらったり、布団干しを手伝ってもらうなど外気に触れる機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金品の預かりはしていないが、立て替え払いとして必要な買い物と一緒に買い物に出かけ本人に支払をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話の取次ぎをしている。手紙などは、本人の了解の元読み上げや代筆支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	要所に手すりをつけ利用者が安全に暮らせるように工夫している。雛人形等飾り季節感も意識的に配慮している。	広い窓から燦々と光が入る居間には、食事用のテーブルと囲んでできるイスが置かれ、利用者がゆったりと暮らしている。段差のない床や洗面台は車いすや歩行器が自由に安全に移動できる仕様となっている。また、加湿器を設置して湿度と温度を管理するなど、健康面への配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置いている。玄関にソファを置き独りになれる場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や馴染みの筆筒や小物入れ、仏壇やテレビを持ち込み、本人が使いやすいように配置し安心した居室作りをしている。	馴染みの家具、仏壇、テレビを持参し、利用者・家族が相談しながら思い出の写真、自作の作品などを飾り寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等分かるように札を下げるなど工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500139		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家室蘭		
所在地	室蘭市緑町3-6		
自己評価作成日	平成26年3月15日	評価結果市町村受理日	平成26年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0193500139-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である、生きがいや役割を持っていただき生活できるよう、スタッフは日々、業務に取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。今後は、ボランティアや地域住民の協力をえて、活動をしていく		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長を通じ、地域の認知症の啓発を行っていく		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催、家族様や地域住民の方の意見を取り入れている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に、施設内で起きている問題点を、市役所や包括に速やかに報告している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットごとや、各種勉強会に積極的に取り組んでいる。また、入居者の行動等を制限しないよう、スタッフ全員が統一した介護をできるよう、努力している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を発足、声掛け等、スタッフ間で注意し合える環境作りをしている。		

グループホーム あさひの家 室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や、ホーム内で勉強会を開催し、意識の共有に努めている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や、重要事項説明書を丁寧に、家族様に説明をし、同意を得ている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、家族様や外部の方からの助言を積極的に取り入れ、運営に反映できるようにしている			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体会議等で、個々の聞き取り調査し、意見を反映できるよう、努めている			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々のスタッフの性格や長所等をつかみ、やりがいをもって、仕事ができるように日々努めている。また、就業規則で、職種ごとに細かく明記されている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等あった場合は、積極的な参加を呼び掛けているも、勤務状況等により、参加できないことが今後の課題である			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会を通じて、交流を図り、お互いの学びや、悩み等の共有を図っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず本人様と面談し、心身の状況等を把握する。また、家族様や利用者様に、悩みごと等ないか、聴き取りも行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の想いや不安なことなど、傾聴し、安心感を与え、次の段階への相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は、出来る限り柔軟な対応をとる。また、他事業者とも連携し、可能な限りのサービス提供に努める		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の立場にたって、物事を考えて行動している。また、心身の状況観察を常に観察しながら、ケア提供に努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時は、常に要望等を聞き、サービス内容に取り入れている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会など、交流関係の援助に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、利用者同士の関係を構築できるように、常に目を配り、援助できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の入居者が1名居たが、その後の相談援助等はできていない			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、常に利用者一人一人の要望を聞き、利用者本位の意向にそえるように努めている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や、家族様から聴き取り調査し、自宅の生活の延長線として、サービス提供に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、利用者一人一人の生活等を把握し、24時間の生活リズムを把握できるよう努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームスタッフが協力し合い、プラン反映に出来るよう努めている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の観察だったり、職員間で話し合い、プランの見直し等をしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を生かして、利用者に負担にならない様、本人や家族の意見を大切に、心身の状況にあわせ対応している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人に、ボランティア等の資源を生かし、サービス反映に努めている			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しても、主治医との連携が途切れないように、常に適切な医療を受けられるようにしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を密接にして、適切な医療提供ができるように、カンファレンス等開催し、適切な受診ができるようにしている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する状況を医療医に提供し、家族とも情報共有を密にしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	選任看護師を雇用し、看取りケアの指針を整備している。また、重度化した場合の、家族アンケートもした			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、応急処置の訓練等行った。緊急時のマニュアルも作成し、全スタッフが対応できるように努めている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を筆頭に、消防署と連携し、避難訓練を行っている			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人格や尊厳を尊重する」を、全スタッフが念頭におき、自尊心を敬う声掛けができるよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人が、自己表現できるよう、努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の目線にたって、個々に合わせた生活ができるように、配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択を、毎時、利用者に伺いして、その人らしい身だしなみができるように、努めている		

グループホーム あさひの家 室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好品を調査して、バランスを考えたメニューを提供している。食器洗いや片づけもスタッフと一緒にしている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量の確認や、栄養補助品の提供、嚥下にあわせた食事の提供をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケア援助をしている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を見極め、適切なケアに努めている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、乳製品の提供、薬剤のコントロールで、便秘の予防に努めている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はきまっていないが、個々が入浴したい日に入浴するなど柔軟に対応している			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて、安眠できるよう、室温や湿度、かけ布団の調整等している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師から説明を受け、副作用や体調変化がないかを見極めた支援をする			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活参加表を作成し、各曜日ごとに食器洗い等に参加して頂いて、役割分担をしている。また、嗜好品も聴き取り、食事提供に努めている			

グループホーム あさひの家 室蘭

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当ホーム近郊の水族館や山に行ったり、気分転換できるように、日ごろから外出支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理はしていないが、必要に応じて立て替えたり、一緒に買い物支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望したら、その都度スタッフが対応し、自由に電話できるような体制を整えている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに展示物を展示している。エアコンを利用し、季節ごとに快適な空間を提供している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでは、気の合う利用者同士が座り、会話を弾ませていたりする			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使用していた日用品を自由に持ち込みできるようにして、混乱なく生活できるように工夫している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には各入居者の名札を貼ったり、トイレや浴室に札を貼ったりして、分りやすい建物配置の工夫に努めている			

目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家 室蘭

作成日：平成 26年 4月 10日

市町村受理日：平成 26年 4月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域社会との関係を大切に、近隣住人の皆さん、商店、地域資源等との連携を考えているが、町内会には、法人としての加入の為行事等には参加できていないのが現状であり課題となっている。	町内会への行事予定に合わせ参加し、グループホームについて地域住民の理解と啓発をする。	町内会長、民生委員と法人としての関わり方を話し合い連携に努める。他のグループホームでの地域との関わり方を参考にし役立てていく。町内会総会に参加し、グループホームを理解して頂き、地域と協力体制を確立する。	1年
2	35	消防と連携を図り避難訓練は行っているが、地域との連携体制は確立されていない。今後の課題として、坂が多い立地場所なので、夜間想定や地震、津波に対する避難想定訓練が必須となる。	市の防災主催の火災、水害、地震訓練に参加し地域との連携に努める。グループホームでの避難訓練へも参加して頂く。	消防署指導の下、地域と合同避難訓練を実施できるように町内会長、民生委員と話し合いをもち、お互いの安全意識を高めていきたい。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。